

第4回 『種まき、サトイモ掘り、畔切り』

と き 2013年4月27日(土) 9:30 - 17:30

ところ テツさん小屋の前、温室裏の畑、谷っ戸ん田

天 気 五月晴れ! 風もなくおだやかで新緑がまぶしい

参加者 梅下(早苗、日菜、浩一郎、裕二郎)、木村江美、久保、坂本、佐々木(利江、優聖)、
高田直子、高橋広明、藤田、藤平(佐知子、夕夏)、松下
計15名(内子供5人含む) テツさん、和久さんも指導、協働

【午前】

- テツさん小屋の軒下を整理、清掃して作業場を作った。ネズミに齧られて穴の開いた袋が多い。そのうち大きな段ボール箱の中で出られなくなった体長6-7cmほどのネズミが見つかった。みんなでカワイ〜イと言ってしまう。
- きれいになった軒下で、テツさんを中心に機械を組み立て始める。和久さんが写真でも撮っておかないと覚えてらんないよ、というほどバラバラな部品を組み合わせ、土入れ機、うす蒔き播種機などを結合していく。
- 消毒用スプレーの塩ビパイプがすっかり詰まっていて、みんなで1個ずつ穴を掃除するのに手間取った。大きなタンクに、立ち枯れ病やダニ予防のためのタチガレン、ダニコールを1000~2000倍に希釈した液を100ℓ用意した。実際使ったのは50ℓだった。
- 一方、苗箱を青いバスタブに入れてブラシで水洗い、その後ケミクロンGを1000分の一に薄めた水溶液に10秒ほど浸けて消毒する。全部で90枚近く用意できた。
- それとは別に脱芒機で種もみのノギを取って播きやすくし、容器に水に張って浸け、浮いて来た中身のないシイナを掬ってすてる作業もしている。この日脱芒機にかけたのは、コシヒカリ、光新世(紀)、キヌヒカリなどだが、シイナを取った後種まきまでに1週間近く水に浸し、それをゴザに広げて陽に晒す必要があるの、本日種まきをするのは、すでにテツさんがその作業を終えてくれている(マキタ改良型)コシヒカリということになった。

【お昼】

- 少し早目だったが、けりのいいところで仕事を止め、お昼にする。テツさんがてっぺんの畑にテントを立ててくれる。朝、鳥小屋の掃除をしたゴミの中にウズラの壊れた卵などがあり、カラスが食べに来ていたのを見たテツさんがユンボでゴミを埋めてくれていた。いつもながら気遣い、段取りに敬服する。テツさん、和久さんも一緒にテントからの目にしみる青葉の景観は絶品で、その上空をオオタカが旋回していた。
- 子供たちを含む3家族は下の雑木林広場で昼食をとり、高橋さんと坂本さんが下の雑木林のハンモックスポットに、子供たちのためにハンモックを吊ってくれた。

【午後】

- 13時過ぎ、機械が動くまで調整が必要だったが、いよいよ種まきが始まる。
- 苗箱トレイに土入れ用の紙を敷き1枚ずつベルトコンベアに載せる⇒土入れ機のタンクに春風床土を補給すると上からトレイに平らに土が入る⇒種が均等に播かれる⇒最後に覆土用の土が上に乗せられ⇒同時にタチガレン溶液が噴霧される、という一連のオートメーションシステムにより、77枚の苗箱が完成する。
- 種まきのできた苗箱を温室に運び、地面につかないように2本木材を渡した上に苗箱を横7枚ずつぴっちり並べ、1段ずつ黒ビニールで包んだ。7段重ねた周りを更にビニールで3回ほど巻いて種まき完了、14時半だった。
- お茶の時間、テツさんからクッキーをいただく。
- 15時、下の温室裏の畑でサトイモ掘り、先週の続き。掘ったイモを大中小に選別。これはワラを被せて冬越しさせたもの、ほとんど被害がないのでびっくり。
- 種イモはワラを被せて埋めると芽が出て来るのでそれを食べられるとのこと、並べてワラを被

せて埋め戻した。

- 16 時半、畔切りを少し行った。糸を張り、そこを水の道にするようにシャベルで掘った。土を掘るのではなく削る、しかも深く、という、園主によるクワを使った実演はだれもまねできない。
- 17 時作業終了、道具の片づけ。ハンモックから眺めた谷戸の静かな景観は今日一日の疲れを癒してくれるようだった。また、草や土で子供たちが作った創作料理の美しさに目を瞠った。

次回の作業予定(5月4日)：荒代かき、畔つけ

(記録：藤田廣子)